

回胴倒錯者

— PACHISLO FREAK —

従業員

どんな職業であっても、従業員という存在は必要不可欠であり、その存在、能力等が会社の発展、あるいは存続につながっている。どんなに優秀な製品・商品であっても、従業員なしでは売れることも宣伝することもできない。逆に、頼りない製品、つまらない商品であっても、優秀な従業員がいれば、うまく売りさばっていくだろう。「お客様は神様」と言う言葉はあまりにも有名だが、「従業員は宝」という言葉が存在してもならん不思議ではない。

私が在籍していたホールも同じで、日々従業員を募集していた。もともとパチンコ店の従業員というものは入れ替わりが早く、入社1日・2日で辞めていくのも日常茶飯事だった。若い人が多いというのもあるだろうが、長続きしにくい職業といえる。辞めていく理由は様々だが、基本的には「不明」と言うものが多い。いきなりこなくなるのがとても多いのである。ホールの寮に住んでいても、突如もぬけの殻だったり、荷物を置いたまま出て行ったり、昨日まで元気に出勤し、仕事も積極的になさっているような人でも突然消えてしまうこともあるほどだ。店長はそれについて「そんなものだよ」と言うだけで気にも留めていない様子だった。「責任」と言う言葉が好きで店長からこういった言葉が出るくらいなので、それがいかにも多いのが容易に見当が付く。そしてその被害を最も受けるのが、2人の副主任

だ。すなわち、Tさんと私である。ホール業務の合間を縫って内勤業務をなんとかこなしていたが、そんなときに限ってインカムからは「副主任、〇〇番台までお願い

します」という嫌な声が聞こえてくるのである。それによって内勤業務がおろそかになり、「なんでコレやってないの？」と店長に問い詰められるのである。「いえ、〇〇君がこなかった為に、知識に乏しい連中しかホールにおらず…」などと言いつつ、話を聞いてみると、「それはお前の教育がいかんだ」と一蹴され、立て続けに「副主任という仕事はな、副主任を新たに作り出すのが仕事だよ、なにお前は班長すらつくりだしてないじゃないか。お前個人が頑張っているのは認めるよ、でもな、それは班長までなんだよ。指導力が無ければ主任は程遠いよ。だいたいお前は従業員に甘いんだよ。衆がしたけりやさつさと役職者を育てることだな」と強い口調で言われた。その言葉はやけに説得力があり、いつもならすぐに思い浮かぶ言いつつも、その時は全く思い浮かばず、むしろそれを考えようとする気力さえも押さえつけられていた。辞めていけると困るという考えから、知らないうちに従業員には甘くなつていたかもしれない、面倒くさい仕事は全て私がしてしまっていたかもしれない。指導する時間を惜しみ、内勤業務に当てていた自分がいた。従業員に「副主任に言えばいいや」と思わせすぎた自分がいた。過去に自分があった危機感を、彼らにも感じてもらう必要がある。平和に馴れすぎた彼らはいざと言

「私やTさんがいなければ、どうやって対処する？」

この言葉を発するようになってから、その厳しい指導は始まり、また彼らもそれについてきてくれた。従業員同士も切磋琢磨するようになり、彼らはまさに「宝」となりつつあったのだ。そしてその「宝達」は、今まで以上に私を慕い、助けてくれた。

班長

「おいA、ちよつと事務所」
ホールにいた私は店長にそう呼ばれ事務所に入った。

「Kさんだけど、班長にしてやろうと思うんだけど、お前はどう思う？」

「機械のことは詳しく、ホールの流れも、インカムもよく分かっています。ただ、従業員の評判は微妙です。私としては班長となつてくれたほうがありがたいです」

「まあいいや、とりあえず班長にしてみよう。だめなら降格させればいいだけだし、ヒヤハハ！」

最後の甲高い笑い声がかかゲームを楽しむよう、なんともいえず嫌な気分にはなつたが、とりあえず新班長の誕生は歓迎である。さつそくK君が事務所に呼ばれ、その旨が伝えられた。あまり喜怒哀楽を出さないK君であったが、このときばかりは少しニッコリしたのが印象深い。

あくる日も朝礼にてK君の昇格が皆に伝えられたが、その反応はある程度予想

いつもの意味深な発言のあとの高笑い、その笑いがいったい何なのか、何を楽しんでるのか、私には全く理解できず、

出没

ごく稀にですが、読者の方に声を掛けられることがあります。それはとても嬉しいことです。しかしいったいどこから私の情報がもれたのでしょうか？そして質問の大半が、「普段はどこで打っているのですか？」とか「スイカの種は数えられますか？」といった具合です。私は5円スロットも打ちますし、20円スロットも打ちます。土曜日はカティさんのゴールドトーションにお邪魔していることがよくあります。スカイラブ2も入ったみたいだし、近々行ってみようと思っています。初代のスカイラブの出来が良かったので、きつと2作目もいいと思います。ルール配列を見ましたが、なんか懐かしい感じのする配列ですね。4号機初期〜中期にあつたような感じですね。配列上、右ルールではスイカの取りこぼしが発生しないので、左・右・中の挟み打ちが最も効率が良いような感じですね。左ルールは王道の黒ラブで挟まれたチェリーを枠内でしよう。右は適当に止めて、スイカがテンパイなら、中ルールで狙う。しかし、左ルールでは楽しめそうな箇所がまだまだありそうなので、実践で探してみましよう。機械割りも悪くないし、高設定

ゲットなら安定度も高そうですね。通常時の小役などを参考に、高設定を探しましょう。
そうそう、スイカの種の件ですが、5号機でなら数えられそう？な感じはします。ルールが止まってしまうので。



スカイラブ2〜再会の空〜 / SNKプレイモア
前作の良い部分をそのままに満を持しての登場。好評だったループ式RTを今作でも搭載しており、ボーナス中の設定推測など攻略要素盛りだくさん！ REG中の技術介入などを駆使し、勝率アップを目指せ！

されたものだった。「え、Kさんが班長？似合わない」「Kさんが白シャツがおかしい」「頼りない…」などの否定論が交錯した。「だからみんなを補佐して、立派な班長にしてやってくれ」そう頼んでは見るもの「え」というやる気のない返事。まあ、時間が解決してくれるだろうと、その日の朝礼を終えた。

それから暫くK班長と従業員たちの様子を見ていたが、今までと全然変わることはない。従業員たちは分からないことがあるとインカムでこう言う「副主任、いいえ、〇〇が分からないので、フォローをお願いします」それを聞いてもK班長は全く動こうとはしない。仕方なく私は班長に聞きなさい。次にK班長を呼ぶ出す。

「なんで俺が呼ばれるの？」
「……。」

「このままだと間違いなく降格だよ。それでいいの？」
「いえ」

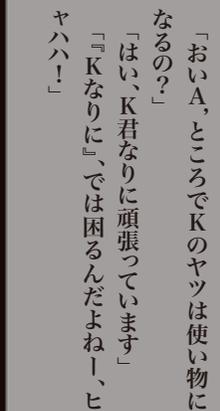
「お前はもう一般従業員じゃないんだから、その自覚を持たないといけない。今までと同じで給料が上がるなんて、そんな都合のいい話はない。従業員が認めれば、必ず俺の耳に入るだろうし、店長の耳にも入る。それを上手く使わないといけない。まずは従業員に頼りにされること、そして意外に大事なのが、従業員を頼りにすることだ」

「はい」
K班長には連日の様に怒鳴っていた。この文面ではおとなしいが、実際は怒鳴り散らしていた。それでも辞めることはなく、少しづつではあるが、改善しようとする姿勢が見られるようになっていた。私も鬼ではないので、その改善された姿勢に少しでも力になるように、従業員たちにコツコツ働きかけていた。

その後K班長は、みんなに認められ、頼られ、慕われる班長になれたわけではなく、みんなに小馬鹿にされながらも頼られるという微妙な立場を確立していった。そんな彼でも私にとっては、大切な「宝」だった。
「おいA、ところでKのヤツは使い物になるの？」
「はい、K君なりに頑張っています」
「『Kなりに』では困るんだよねー、ヒヤハハ！」

A氏プロフィール

三重県出身。三重の高校を卒業後、進学のため大阪へ。学業よりもパチスロに専念してしまいお決まりコースの大学中退。中退後3年間はパチスロで生計を立てる。その後サラリーマンになるも副収入はパチスロで。結婚のため三重に戻りホール店員となる。現在は知識と経験を生かし某店で設定師として手腕を振るっている。目押しレベルはスイカの種まで直視できるほどの異常っぷり。



ルール配列